

# 事前放流ガイドラインについて

令和3年7月

国土交通省 水管理・国土保全局

# 事前放流ガイドラインの主な内容

## ○総論

- ・国土交通省所管ダム及び河川法第26条の許可を受けて設置された利水ダムを対象
- ・技術・システムの進展や適用した実績の状況を踏まえ、運用や精度を改善していく観点から、必要に応じて内容を見直す

## ○基準等の設定方法

### ◆開始基準の設定

- ・ダム上流の予測降雨量が、ダムごとに定めた基準降雨量以上であるとき

### ◆事前放流による貯水位低下量の設定方法

- ・予測総降雨量をもとにダムの流入総量を算出し、事前放流により確保する容量を設定して貯水位に換算

### ◆事前放流時の最大放流量

- ・事前放流（貯水位低下量を算定した結果、必要な貯水位低下量が既に確保された状態にある場合において、当該貯水位を維持するために行う放流も、事前放流として取り扱う）による最大放流量は、ダム下流河川の流下能力、下流河川利用者の安全の確保、放流設備の放流能力等を考慮して設定

### ◆事前放流の中止の基準

- ・容量が確保された場合、予測降雨量に変化して基準降雨量に該当しなくなった等の場合には中止

### ◆事前放流の実施にあたっての留意事項

- ・河川管理者、ダム管理者、関係利水者は、あらかじめ、協働して、水系ごとに締結した治水協定の内容など事前放流の実施について、関係地方公共団体に説明
- ・河川管理者である国土交通省は、災害や事故の防止等のため必要があるときは、ダム管理者に対し、事前放流の放流量を調整するなど必要な措置をとるよう要請

### ◆事前放流の操作ルールへの位置づけ

- ・事前放流の開始基準や中止基準等を規定する実施要領を、ガイドラインに即して作成することを原則とする。利水ダムの操作規程は、河川管理者が、河川管理を適切に行う観点から確認し、関係者において情報共有することが望ましい

詳細は別紙

## ○事前放流後に水位が回復しなかった場合の対応

## ○事前放流によって河川環境に影響が生じた場合の対応

## ○適切に事前放流操作を行うためのダムの管理体制の確保

- ・事前放流は、降雨の予測に応じて適時に行うものであり、事前放流の実施に必要な体制を確保し迅速な参集体制を整えておく
- ・事前放流を的確に行うため、ダム施設等を常に良好な状態に保つために必要な観測、計測、定期的な点検及び整備を実施

## ○施設改良が必要な場合の対応

## ○(参考)事前放流の河川法上の解釈

# 事前放流ガイドライン 開始基準と貯水位低下量について

## 【開始基準】

- ・ダム上流の予測降雨量が、ダムごとに定めた基準降雨量以上であるとき。
- ・基準降雨量は、下流で氾濫等の被害が生じるおそれのある規模（ダム下流河川の現況流下能力に相当する規模）の降雨として定める。

## 【貯水位低下量設定方法】

### （予測降雨量）

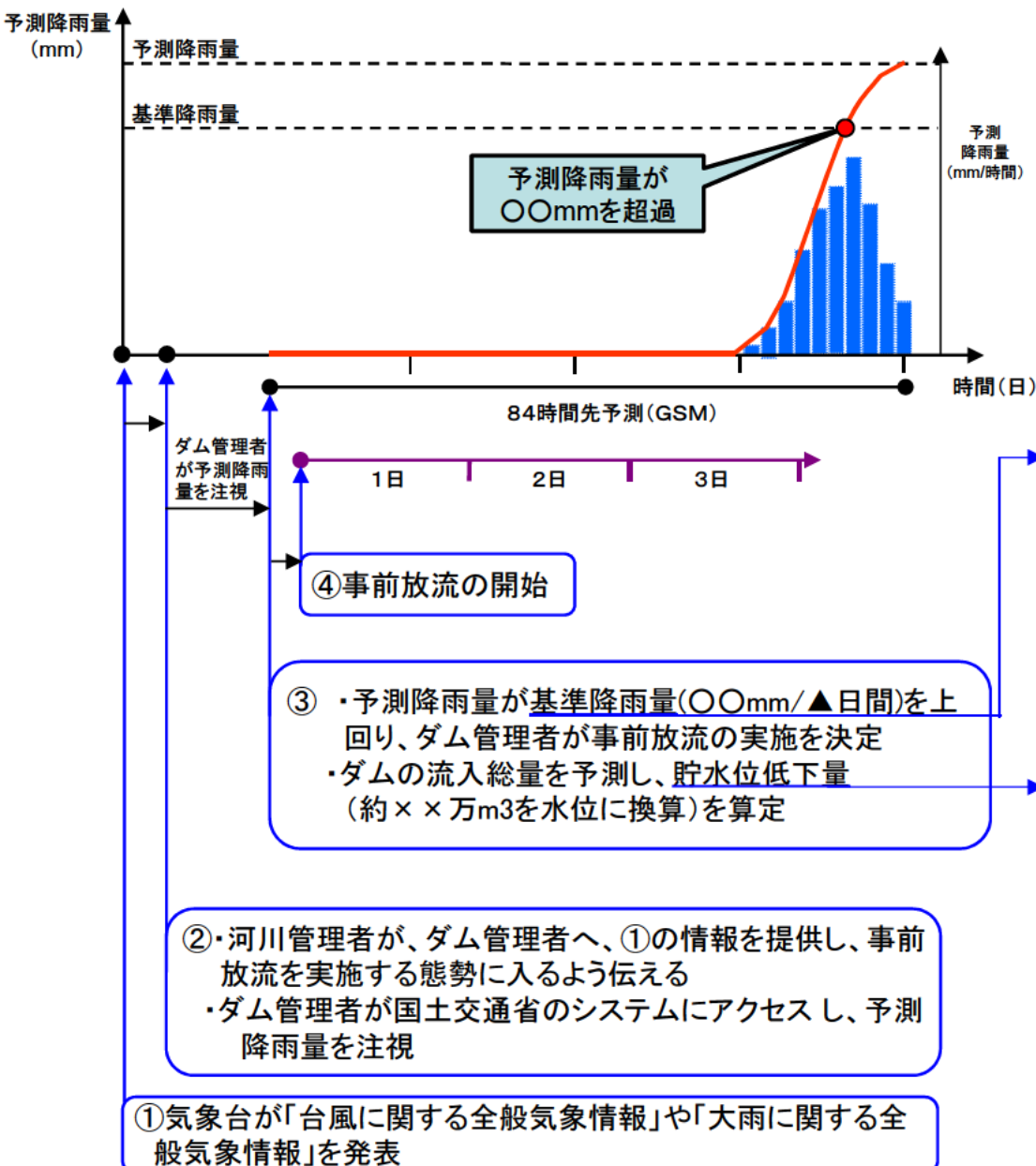
- ・事前放流の実施判断は3日前から行うことを基本とし、予測降雨量は、84時間先までの予測を行うモデル（気象庁の全球モデル）による数値予報データを用いることを基本とする。  
39時間先までの予測を行うモデル（気象庁のメソモデル）による数値予報データも併せて用い、いずれか大きい方が基準降雨量以上であるかを確認する。

### （貯水位低下量）

- ・予測総降雨量をもとにダムの流入総量を算出し、事前放流により確保する容量を設定した上でこれを貯水位に換算する。

# 事前放流の実施フロー

## ○事前放流の実施判断



## 【基準降雨量】

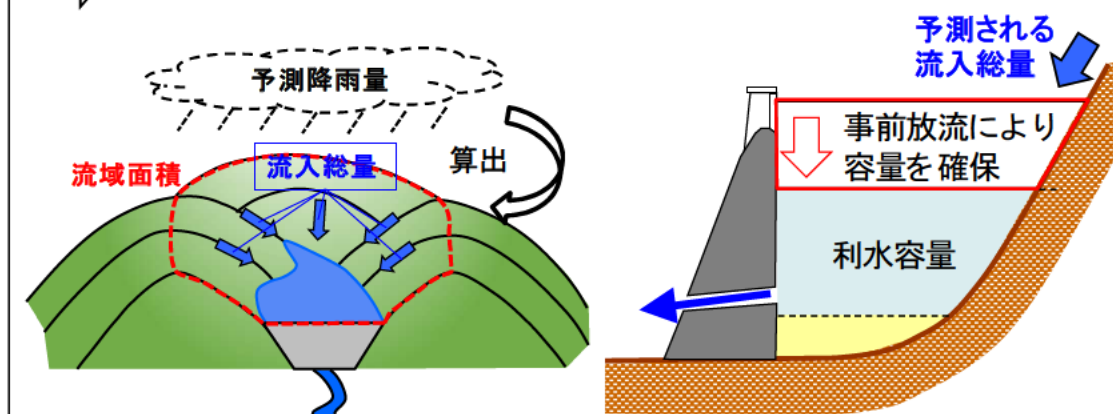
ダム上流域で基準降雨量(〇〇mm/▲日間)を上回るとき、下流河川において、氾濫するおそれがある危険な状態となる



## 【貯水位低下量】

予測降雨量をもとにダムの流入総量を算出し、事前放流により確保する容量として、約××万m3を算定し、これを貯水位に換算

⇒ ××万m3の容量を確保するべく水位低下



※小規模な農業用ダム等については、季節ごとにあらかじめダムの水位を低下させておくなどの運用(簡易な事前放流)を行う。